

「税が支える私たちの未来」

田村 愛香

私たちの生活は、気づかないうちに多くの税に支えられている。学校に通うことができるのも、道路や橋を安全に使えるのも、病院で安心して治療を受けられるのも、すべて税のおかげだ。けれども、普通の生活では税の存在を意識することは少なく、買いものをして消費税を払うときに「ちょっと高いな」と感じるくらいかもしれない。私自身もこれまでは税について深く考えたことがなかった。だが、公民の授業で学んでいくうちに、税は社会にとってなくてはならないものであり、将来の自分にも大きく関わることを理解するようになった。

日本では、「みんなで負担し、みんなで支える」という考え方が税の基本にある。もし税がなかったらどうなるのだろう。警察や消防は利用者が直接お金を払わなければ動けなくなり、道路や交通も整備されなくなる。お金のある人は守られるが、そうでない人は安全を失ってしまう。そんな社会では人々の信頼もなくなり、安心して生活することはできない。税は単なる「お金の集め方」ではなく、みんなの安心を分け合う仕組みだと思う。

特に印象に残ったのは税が未来への投資でもあるということだ。例えば教育費に使われる税金は、子どもたちが学び、将来社会に貢献する力を育てる。医療や福祉に使われるお金は、高齢者や病気の人だけでなく、いつか自分自身や家族をも助ける。つまり税は今を支えると同時にこれから育てるものでもあるのだ。

もちろん、税には負担という面もある。働く人から所得税が引かれたり、消費税が買い物ごとにかかったりすると、人々は「もっと自分のためにお金をつかいたいのに」と思うかもしれない。私もお小遣いを使うときに消費税が加わると少し不満を感じる。しかし、それもみんなで社会を維持するための一歩だと考えると納得できる気がする。むしろ、その不満を「私も社会の一員なんだ」という実感に変えていくことが大切なのではないだろうか。

将来、私は働いて税金を納める側になる。正直に言えば、税金を払うのは少し面倒で損をするような気持ちになるのかもしれない。それでも、税によって社会が成り立っていると知っている今の自分なら、「払うこと＝みんなを支えること」と理解できるはずだ。自分が払った税が、誰かの学校や病院や生活を助けると思うと、少し誇らしい気持ちになれるのではないかと思う。

これからの社会は高齢化や環境問題など、さまざまな課題に直面していく。だからこそ税の役割はますます重要になるだろう。私たち若い世代は「税に支えられる存在」から「税で支える存在」へと変わっていく。その時に不満や不信感だけでなく、理解と責任感を持てるかどうか、社会の未来を左右するのだと思う。日本の将来に幸あれ。